

ETFの活用と指数をめぐる諸課題

矢野 学 CMA

(証券アナリストジャーナル編集委員会委員)

1. はじめに

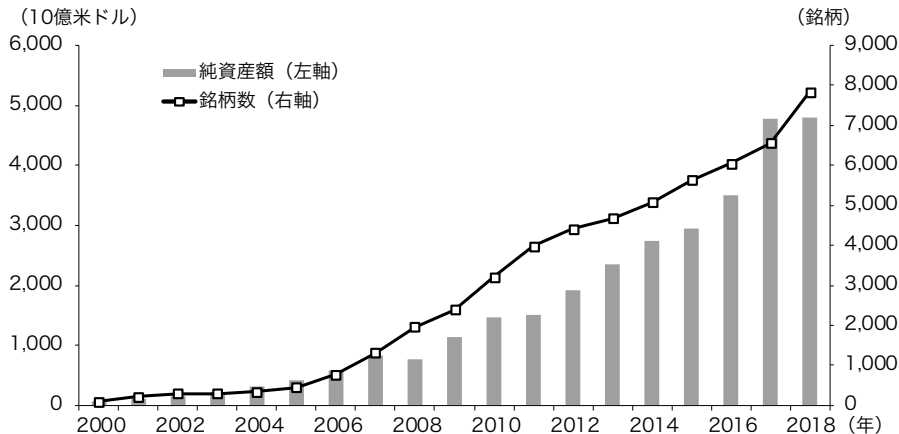
日本を含めて先進各国ではここ数年、様々な種類のETFが上場されている。一般的な株価指数ETFにとどまらず、いわゆるスマートベータ型や債券、コモディティ、ヘッジファンドの戦略を模倣したオルタナティブ型なども上場されており、資金流入も顕著である。図表1は、日米欧などのグローバルなETFの市場規模と上場銘柄数の推移を示したものである。2000年代初頭から順調に資金が流入するとともに銘柄数も増加してきており、18年末時点での純資産総額は約5兆米ドル、銘柄数は7,600銘柄余りに上っている。

本稿では急成長するETF市場について、その活用やパフォーマンス、コストの実態、参照する指数にまつわる論点などについて考察してみたい。

2. ETFの拡大と活用

ETFについては、本証券アナリストジャーナル誌でも、10年11月号で「ETF」と題する特集テーマを組み、グローバルなETF市場やETFの価格形成、日本のETF市場に対する課題や展望を論じた。また17年1月号でも、「上場投資信託市場の新展開」と題した特集テーマで取り上げ、ETF市場の現状や実際の活用事例、日本市場での特徴や

図表1 ETF市場の規模・銘柄数の推移



(出所) BlackRock、Bloombergのデータを基に筆者作成